

我が家(伊藤家) のルーツ

NHKの人気番組「ファミリーヒストリー」にコメディアンで俳優の伊東四朗さんが登場しました。「ファミリーヒストリー」は有名人の何代にもさかのぼる祖先を調べ上げそのルーツを探ろうというもの。番組では伊東四朗さんの父方のルーツは静岡県伊東市にあり、平家に使えた豪族であったことを伝えています。これをみて、伊東四朗さんと私は浅からぬつながりがあることをおもい知らされました。実は、我が家 の先祖も全く同じ、多分、私と伊東四朗さんとは遠縁に当たるのだと思います。

少し前の話ですが、2012年のNHK大河ドラマは「平清盛」でした。NHKの大河ドラマの視聴率は低迷していますので、記憶に残っている方も少ないかとおもいます。ドラマの中で、清盛の家臣として伊東祐親（いとうすけちか）という人物が登場します。実は、伊東祐親は我が家の先祖らしいのです。ドラマでは祐親役を峰竜太が演じています。

祐親は平安時代末期伊豆国伊東（静岡県伊東市）の豪族です。このことは、いくつ の歴史書を紐解いても確認することができます。祐親は、東国における親平家方豪族として平清盛からの信頼を受けましたが、平治の乱に敗れて伊豆に配流されることになります。伊豆に流された祐親は、清盛から源頼朝の監視を任せられました。

しかし、祐親が大番役で上洛している間に、祐親の娘の八重姫が源頼朝と関係をもつてしまい、子（千鶴丸）を儲けるまでの仲になってしまいます。いつの世にも、禁断の恋というはあるものなのですね。ところが、祐親はこれを知って激怒し、安元元年（1175年）9月、平家の怒りを恐れて千鶴丸を松川に沈めて殺害してしまいました。さらに、頼朝自身の殺害を図ったとされています。何ともむごい仕打ちです。

治承4年（1180年）8月に頼朝が打倒平家を目指しの兵を挙げると、大庭景親らと協力して石橋山の戦いにてこれを撃破します。しかし頼朝が勢力を盛り返して坂東を制圧すると、逆に祐親は追われる身となり、富士川の戦いの後捕らえられ、娘婿の三浦義澄に預けられます。頼朝の妻・北条政子が懷妊した機会を得て、義澄による助命嘆願が功を奏し、一時は一命を赦されましたが、祐親はこれを潔しとせず「以前の行

いを恥じる」と言い、自害して果てました。一部の歴史家の間に、伊東祐親は粗暴で極悪人だったとの評価もありますが、これについては評価が分かれるところです。

平家が源平の戦に敗れたあと、祐親の一族郎党の一部は落人となり今静岡県浜松市 北区三方原（みかたっぱら）町付近に逃れたとのことです。そして、一族は、今浜松市中区池町にある真宗大谷派の寺院「芳薌寺」を菩提寺として、寺に多くの寄進をし、寺の存続に大きな貢献をしたと記録されています。実は、我が家が伊東祐親の末裔であるということがわかったのは、芳薌寺に残されていた先祖の家系図によるもの。おそらく伊東四朗さんの先祖は、源平の戦いに敗れたあと、静岡県の相良付近に逃れその地に根を張り脈々と生き続けてきたものと思います。

さて、もう一つの疑問は、「伊東」の姓が「伊藤」に変えられことです。このことは長い間、私の疑問だったのですが、NHKの「ファミリーヒストリー」では、伊豆国伊東の豪族 は藤原鎌足の流れをくむことから「藤原」の「藤」を充てたと推測していました。姓の文字 を変えるということは今では考えられないのですが、戸籍制度がしっかりと確立されていない時代には決して珍しいことではなかったようです。浜松の芳薌寺を訪ねてみると、墓石には伊藤姓がズラッと並び、それらの家系は私の遠縁にあたるのだなと思います。これからも、先祖の供養を続けて行こうと思います。ついでに、浜松のおいしい鰻をいただくことにするつもりです。

芳薌寺 <http://www5.ocn.ne.jp/~housenji/top>

[トップページへ](#)

無断転用を禁止します。